

# 『徳島・城めぐりの旅』

2024.9.3 森 俊彦

阿波・徳島には、日本城郭協会選定の名城が3城ある。徳島城、勝瑞城、一宮城だ。

戦国時代、阿波でも群雄が割拠した。その頃、土佐の長宗我部元親は天正6年(1578)に、“四国の十字路”ともいえる位置にあった阿波白地(はくち)城(現・三好市池田町白地)を攻略、阿波へ侵攻を開始した。

この後、天正10年(1582)の本能寺の変を契機に、元親が織田信長勢力下の勝瑞城などを攻略し阿波を平定。しかし、天正13年の羽柴秀吉の四国征伐の際、一宮城を舞台に両軍が激戦を展開したが、元親は秀吉に敗れた。この戦いで勲功のあった蜂須賀家政が秀吉から阿波を賜った。家政は天正14年に徳島城を築き、一宮城から居城を移した。それ以降、蜂須賀家は阿波を明治維新まで治めた。

今回、大石君の配慮で、徳島城博物館の学芸員、森脇崇文氏(阪大院卒)が徳島城を、板野郡藍住町教育委員会の学芸員、重見高博氏が勝瑞城をそれぞれ案内していただきます。

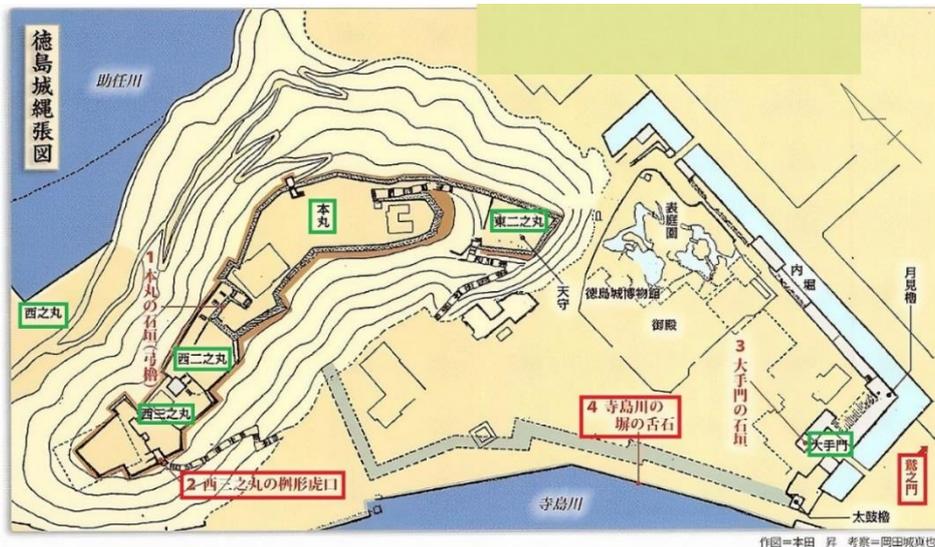


## ●徳島城(吉野川河口に築かれた蜂須賀氏の平山城)

徳島城の所在地は徳島市徳島町城内。日本城郭協会が定める「日本100名城」の76番目の平山城。

羽柴秀吉の四国平定がなった天正13年(1585)に阿波に蜂須賀家政が入国。翌年の天正14年に滑津(いのつ)を城地として徳島城を築城。初代城主は蜂須賀家政(藩祖)で14代の茂韶(もちあき)までの280余年の間、蜂須賀家の居城であり徳島藩の政庁だった。明治8年(1875)、陸軍省によって建物が解体され、その歴史に幕を閉じた。

標高61メートルの城山山頂に本丸を置き、西二の丸、西三の丸、東二の丸を周囲に配し、詰めめの城とし、麓には御殿を置いた。本丸



にあった初代天守は元和期に取り壊された。その後天守は東二の丸に建てられた。

石垣は阿波の青石を用い、本丸周囲は高石垣で堅固にしていた。西の丸の石垣は、「横矢掛り」=城に侵入してこようとする敵に側面から攻撃するための防衛施設。鉄砲も使った=工夫が目立つ。

### ★見どころ

・西三の丸門跡=急な階段を上がると枡形虎口である。曲輪の虎口は枡形にし、防御を固めている。



・下乗(げじょう)橋と大手門跡=石橋の下乗橋を渡った先の手門も枡形虎口である。石の加工具合と積み方の違いが目立つ。(写真右)



・復元された鷲之門=大手門(黒門)外側の三木曲

輪に構えられていた門で、昭和20年7月の戦災で焼失した。

その後、平成元年に再建された。(写真左)

・舌石(したいし)=旧寺島川沿いに折れ曲がり堀(屏風堀)の柱を支えて居た台石が6基残っている。

●勝瑞城（しょうずいじょう・細川氏・三好氏が本拠とした城館と平城）

勝瑞城の所在地は徳島県・藍住町。日本城郭協会が定める「続日本 100 名城」の 175 番目の城館、平城。

築城時期は不明。室町時代に阿波の守護・細川氏の守護所が置かれていたと伝わる。16 世紀の半ばに家臣の三好実休（じつきゅう）が謀反を起こし実権を握り、三好氏もこの後、勝瑞を本拠にした。

勝瑞城は長宗我部氏の侵攻に備えて館の北東に築かれたとみられるが、天正 10 年（1582）に長宗我部氏に攻められ、落城し廃城となった。

城跡は東西約 105 メートル、南北約 95 メートルの不整形方形で、周囲には水堀と土塁を巡らせていた。水堀は幅約



13 メートル、深さ 3 メートル以上と大規模で、土塁は基底部幅約 12・5 メートル、高さ約 2・5 メートルで巡っている。水堀と土塁は現存している。

三好氏 4 代の墓は見性（けんしょう）寺にあり、境内には三好氏の歴史を記した「勝瑞義家（ぎちょう）碑」も建つ。

勝瑞城の南西には、広大な敷地が広がる居館跡（写真左）がある。

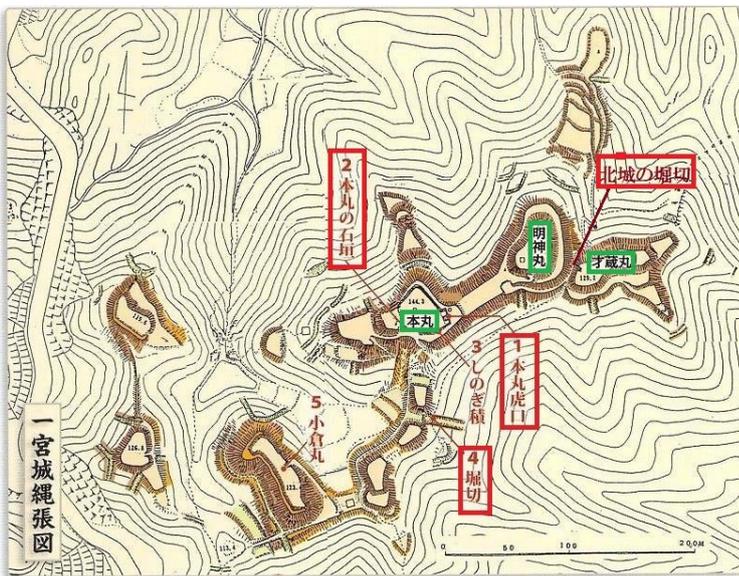
勝瑞城館跡は、阿波三好家の居館跡と推定される遺跡。平成 6 年度から発掘調査が始まっている。



●一宮城（いちのみやじょう・広大な城域に数多くの曲輪を置く山城）

一宮城は徳島市一宮町西丁。日本城郭協会が定める「続日本 100 名城」の 176 番目の山城。

南北朝時代、阿波守護・小笠原氏一族の一宮氏が築いたとされる。天正 10 年（1582）に長宗我部氏が阿波を支配すると、一宮氏は滅ぼされて城は家臣に与えられた。



作図＝本田 昇 考察＝岡田城真也

豊臣秀吉の四国平定後、阿波国主となった蜂須賀氏が入るが、翌年には徳島城を築いて移り、一宮城は支城の一つとされた。鮎喰川に面した標高約 144 メートルの城山一帯に築かれ、東西約 800 メートル、南北約 500 メートルの広大な地域を有する。起伏にとんだピークごとに、北域の曲輪群、南域の曲輪群など、多くの曲輪がほぼ階段状に連なる。また、北東山麓に平時の居館を設けていた。



▲阿波最大級の山城・一宮城への登山口  
四国霊場 13 番札所大日寺のすぐ近くにある。



★北城の堀切＝尾根続きの明神丸と才蔵丸を分断している。（縄張図参照）

★本丸虎口の石垣（写真左）＝一宮城は土造の山城であるけど、本丸のみに石垣が築かれている。

（参考資料：「日本名城ガイドブック」）